

共産主義者か社会民主主義者か？

フリードリヒ・エンゲルス《〈フォルクスシュタート〉からとった国際問題論集》

(1871 - 1875年). ベルリン, 1894年.

1894年の序文***

- 共産主義者か
社会民主主義
者か？
- 序文 (1894年1月3日) のなかで, エンゲルスは, とりわけ, こう指摘している. 自分はこれらすべての論文 (1871 - 75年) のなかで, 自分のことを社会民主主義者とよばずに共産主義者とよんでいる. それは当時は, フランスではブルードン主義者, ドイツではラッサール派が自分のことを社会民主主義者とよんでいたからである (6ページ)
- NB (注目) <だから, マルクスと私にとっては, われわれの特別な立場を表わすのに, そのようなあいまいな表現を選ぶことは, どうてい不可能であった. 今日では事情が変わり, この言葉 [社会民主主義者] はそのままもちいられているが, そのままではこの言葉は, 一般に社会主義的であるばかりでなく直接に共産主義的である経済綱領をもち, すべての国家の克服を, したがって民主主義の克服をその政治的終局目標とする政党にとっては, 不適當である. しかし実際の>
- NB (注目) (アンダラインはエンゲルス) <政党の名称は, ぴったり一致するものではない. 党は発展するが, 名称はもとのままである> (7ページ)

***大月書店版《マルクス=エンゲルス選集》第13巻 P173 参照

第 39 卷 帝国主義主義論ノート《v ニュー》 P470 1915-1916年に執筆